

課 程	博士課程前期課程	コース	経済学専修コース
科 目	専門科目		
出題部門	経済史部門	問 題	問題 1

出題の意図	<p>目的 産業革命を国際比較の視点から捉え、複数の観点（資源・市場・技術・政策）を用いて構造的に説明する力を評価する。</p> <p>評価したい能力</p> <p>1. 基礎知識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各国の産業革命期の特徴（資源条件、技術革新、制度的枠組み） • 主要技術（蒸気機関、鉄道）、政策（自由放任、関税同盟、投資銀行） <p>2. 比較・分析力</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同一観点で3か国を並列比較し、差異の要因（資源条件、教育水準、国家介入度、市場統合度）を説明 • 解答に含めるべき主要要素： <ul style="list-style-type: none"> ○ イギリス：資源・市場の優位、自由放任主義（レッセフェール）、蒸気機関・鉄道技術 ○ フランス：資源・市場の制約、国家補助、クレディ・モビリエ（動産銀行）、工芸的生産の残存 ○ ドイツ：資源偏在、教育制度（工科大学）、関税同盟、国家主導の産業政策、化学・電気分野で後発優位 <p>3. 論述構成力</p> <ul style="list-style-type: none"> • 序論→本論→結論の構成を整え、観点間の因果関係（資源→市場→技術→政策）を示す <p>4. 学術的表現</p> <ul style="list-style-type: none"> • 専門用語の正確な使用（例：レッセフェール、クレディ・モビリエ）
-------	---

解答例
(解答のポイント)

解答例 (約 1067 文字)

産業革命は 18 世紀後半から 19 世紀にかけてヨーロッパ諸国で進展したが、その展開は国ごとに異なる資源条件、社会構造、技術革新、政策選択に基づいていた。ここではイギリス (18 世紀後半～19 世紀前半)、フランスとドイツ (19 世紀前半～19 世紀末・20 世紀初頭) を対象に、物的・人的資源、市場、技術、産業政策の観点から比較する。

第一に、物的・人的資源では、イギリスは豊富な石炭・鉄鉱資源と海運力を有し、農業革命による生産性向上が都市への労働力供給を促した。技術者養成は民間主導で進み、企業家層はワットやスチーブソン父子に象徴される鉄道技術者や紡績業の発明家などが存在した。フランスは石炭資源が乏しく、小農経営の維持が都市への労働力移動を制約したが、エコール・ポリテクニクなどの高等教育機関が技術者を育成した。ドイツは鉱物資源に恵まれていたが、その立地は偏在していた。しかし、ボルジヒやクルップなどの企業家と職人層が産業化を支え、工科大学や中等教育機関の整備により技術者層を養成した。

第二に、市場では、イギリスは厚い中産階級に支えられた国内市場と植民地市場の拡大により機械生産に有利であった。一方、中産階級の少ないフランスは国内市場が狭隘であり、機械生産に不利であった。政治的に分裂していたドイツは、関税同盟を通じて統一市場を形成するとともに、同盟内での企業間競争を促した。

第三に、技術では、イギリスは蒸気機関や鉄道技術、紡績機など革新的技術を先導し、鉄道網の整備で産業化を加速した。フランスは機械生産を導入したが、手工業的生産が長く残存し、技術革新の速度は緩慢であった。ドイツは鉄道建設を契機に製鉄業・機械工業を発展させ、19 世紀後半には化学 (バイエル)・電気 (ジーメンス) 分野で世界的優位を確立した。

第四に、産業政策では、イギリスは (レッセフェール) を基本とし、民間資本の活発な投資に依拠した。フランスは国家主導で鉄道建設などに補助金を投入し、ペレール兄弟によるクレディ・モビリエ (動産銀行) を通じて産業資金を供給した。ドイツは、統一前の各地の領邦政府、統一後の帝国政府が関税政策、産業界へ融資する投資銀行 (ドイツ銀行など)、技術教育を組み合わせ、産業化を戦略的に推進した。

以上の比較から、イギリスは資源と市場の優位により先行し、フランスは資源・市場の制約下で緩慢な産業化を遂げ、ドイツは国家主導と技術力により急速な産業化を実現した点が特徴である。産業革命は単一のモデルではなく、各国の資源条件と政策選択に応じた多様な発展経路を示したことが理解できる。